

## マンガを要約したいなら、デジタル的選択とアナログ的重み付けと、

### どちらのほうが望ましいか

竹内 俊彦

駿河台大学 / 教育テスト研究センター

筆者はマンガを用いた要約力の測定テストを研究している。テストの概要は、実験参加者にストーリー・マンガを読んでもらい、全体のコマ数の 5%~20% 程度のコマを選択することで要約してもらおうというものである。採点にあたっては既存の正解は存在せず、参加者の集合知に近いほど、つまり、多くの参加者が選択したコマを選ぶほど良いと定義している。2018 年、2019 年の実験では、実験参加者が 108 コマのマンガから 5~20 コマを選択するという方法、つまり各コマを選択するか否かという 1, 0 のデジタル的な判断で要約をさせていた。今回の実験では、各コマに(アナログ的)に 0~3 の重みづけで要約を行うこととした。研究仮説は「粒度が小さい分、アナログ方式のほうがデジタル方式よりもよい良い要約が得られる」というものである。

2020 年 11 月 15 日に、大学生 50 名に対してアナログ方式でマンガの要約を行った。実験結果を過去のデジタル実験と比較すると、アナログ方式で得られた要約のほうが、デジタル方式で得られた要約よりもやや精度が低かった。これは研究仮説が否定されたことになるが、その原因は、実際に人々が行っている要約作業がデジタル方式に近いからである、と考えられる。しかしアナログ方式でも、50 名の実験参加者全員のコマ重要度の高いコマだけを選択して読むと、それなりに良い要約となっていた。つまり集合知による要約はアナログ方式でも頑健であった。背景及びその詳細な分析は今後の研究対象である。

キーワード：要約能力，マンガ，実験，選択

#### 謝辞

本研究は、科研費（基盤 C「集合知によるマンガ要約テストの確立と、その評価基準を用いたマンガ要約ソフトの開発」 課題番号 17K01142）の助成を得た。また実験にあたり、実験者の手配や会場の準備などに関して教育テスト研究センターの多大な助成を得た。さらにマンガの利用にあたり、芳文社コミックスの協力を得た。